テーマ:

「凛々子」と一緒に 大きくなったひまわりぐみ

広島県
社会福祉法人　愛児福祉会
口田なかよし保育園

立石 真由美先生

この活動の特徴

「凛々子」活用のポイント①

当番を決めて
みんなで世話をした

「凛々子」活用のポイント②

収穫した「凛々子」を使い、
さまざまなメニューをみんなで調理した

活 動 の ね ら い

- 野菜が育つ過程を知り、収穫の喜びを味わう
- 自分で調理して食べる喜びや、食べ物を大切にする気持ちを育む

活 動 の 概 要 と 流 れ

対　象　学　年　：　４歳児　（２６名）
実　践　期　間　：　４～１１月

時期	学習活動
４月	定植、観察開始
５・６月	観察して気付いたことを絵に描く
７月	初収穫。収穫した「凛々子」をトマトソースにする
	「『凛々子』パン」と「トマトそうめん」を作り、園の夏祭りで販売
８月	平和記念日に「かわいそうなぞう」を朗読
	ぞうに「凛々子」を食べさせている紙芝居をみんなで描く
９月	収穫した「凛々子」を各家庭に配布。親子で調理をしてもらう
１０・１１月	冷凍保存しておいた「凛々子」で複数回調理をする
	作ったメニュー:「凛々子」カレー、ミネストローネなど

ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

平和記念日の学習

園のある広島に、1945 年に原子爆弾が投下され、たくさんの命が犠牲となった。この忘れてはいけない日である 8 月 6 日に、毎年、全園児で「平和って何？」をテーマに考える日としている。今年は各組が考えた「平和」を、大型紙芝居にして発表した。

ひまわり組では紙芝居を作る前、「かわいそうなぞう」という絵本を読んだ。この本は「もし動物園に爆弾が落ちたら、動物たちが町へ出てあばれ出してしまう。そうなる前に動物たちを殺してしまう」という戦争中に本当にあった話だ。この絵本を読むと、ちょうど「凛々子」の収穫時期であったこともあり、「『凛々子ちゃん』をぞうさんに食べさせてあげたい！」「爆弾を作るんじゃなくて凛々子を作ったらいい！」「お腹がすいた人に僕たちが育てた『凛々子』を食べさせてあげたいな！」という感想があった。その子どもたちの想いを大型紙芝居にした。

紙芝居の発表後、他の組の子どもたちや先生方から「一つのトマトから、たくさんのことを学んだのですね」「命の恵みやありがたみをトマトから学びました。」などという感想があった。

一見すると「戦争」と「野菜栽培」という何の関係のないように感じることでも、子どもたちの自由な発想や考え方で、結びつけることができることを実感した。

「凛々子」を使ってさまざまなメニューを調理した

収穫した「凛々子」を使い、複数回調理を行った。一番始めはトマトソースを作り、そのソースを使い「『凛々子パン』と「トマトそうめん」を作り、園の夏祭りで販売した。保護者や他の先生から「とてもおいしい」「もっと食べたい！」と大変好評だった。

また、ピザやミネストローネなども作り、子どもたちは皮むきから自分たちで行った。トマトが苦手な子どもも、「自分で育てて、自分で調理したからおいしい！」と食べられるようになった。

たくさんの「凛々子」を収穫できたという達成感、また調理して食べること、そしてそれを誰かにふるまうことの喜びを実感したことで、食への興味・関心が高まり、とても充実した活動となった。

先生から一言！実践を通して

食が細い子どもが少しでも食べ物に関心を持つことを通じ、たくさん食べられるようになることを期待し、「凛々子」の栽培活動に取り組みました。

収穫を楽しみに、毎日水やりや観察しながら、トマトの栄養についても学びました。

大収穫だった「凛々子」は園で調理したのはもちろん、家庭にも持ち帰ってもらい、親子で調理してもらいました。

子どもたちは「凛々子」の栽培活動を通して、自分たちで野菜を育て、それを調理して食べること、そして誰かにふるまうことの喜びを感じてくれたと思います。

受賞理由

責任感を育む水やり当番、観察画、「『凛々子』パン」の販売、親子クッキングや紙芝居などさまざまな活動への展開など、随所に工夫をされています。栽培活動のきっかけとなった園児の「食が細い」という課題も、調理実習では完食が出るなど、「野菜好き」のきっかけとして取り組んでいただきました。